



# 首都圏ハイブリッドワーカー調査結果 vol.1

コロナで定着した「Web会議」、不便や不満を感じるのは  
「通信品質」と「相手の反応や表情がわからないこと」

2023年5月

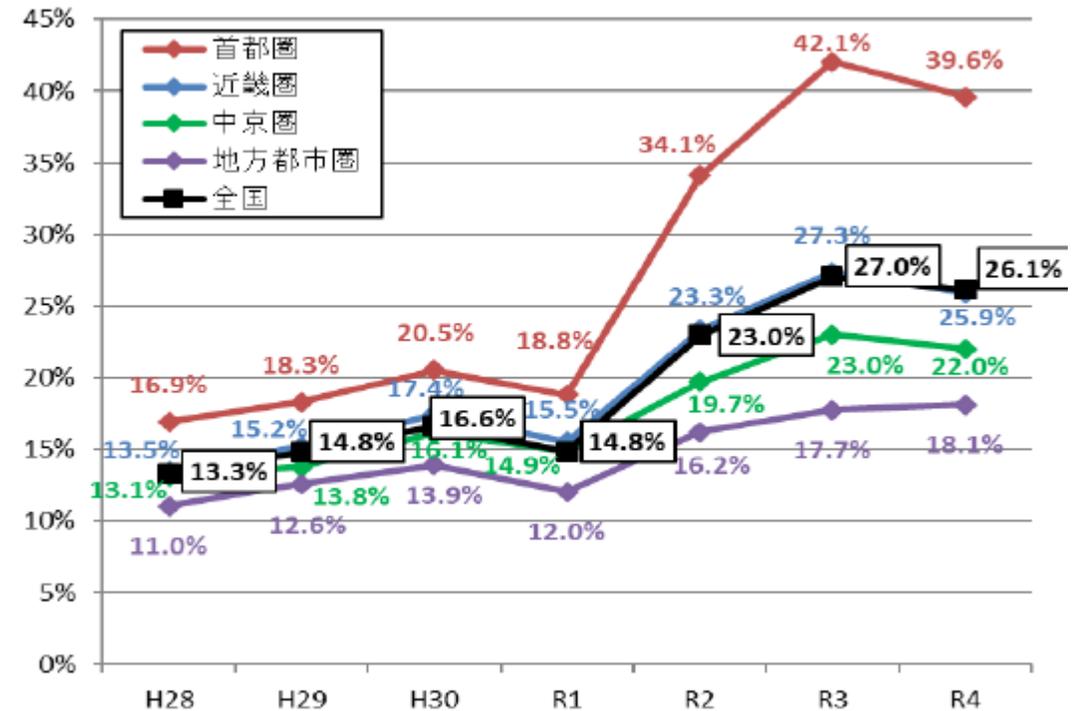
# 首都圏ハイブリッドワーカー調査の概要

コロナ後の定着が進む「ハイブリッドワーク」におけるWeb会議の実態と課題を把握するため、首都圏の企業（従業員100名以上）に勤めるハイブリッドワーカーに対して調査を行いました。

## ■ 調査概要

調査対象	東京23区の企業（従業員100名以上）に勤務し、週1回以上ハイブリッドワークを実施するオフィスワーカー（Web会議を実施している人）
回答者数	2,000人
調査手法	インターネット調査
調査時期	2022年10月

## （参考）地域別テレワーカーの割合



（出所）令和4年度テレワーク人口実態調査（国土交通省）

# 首都圏のハイブリッドワーカーは、週あたり平均6.5時間のWeb会議を実施

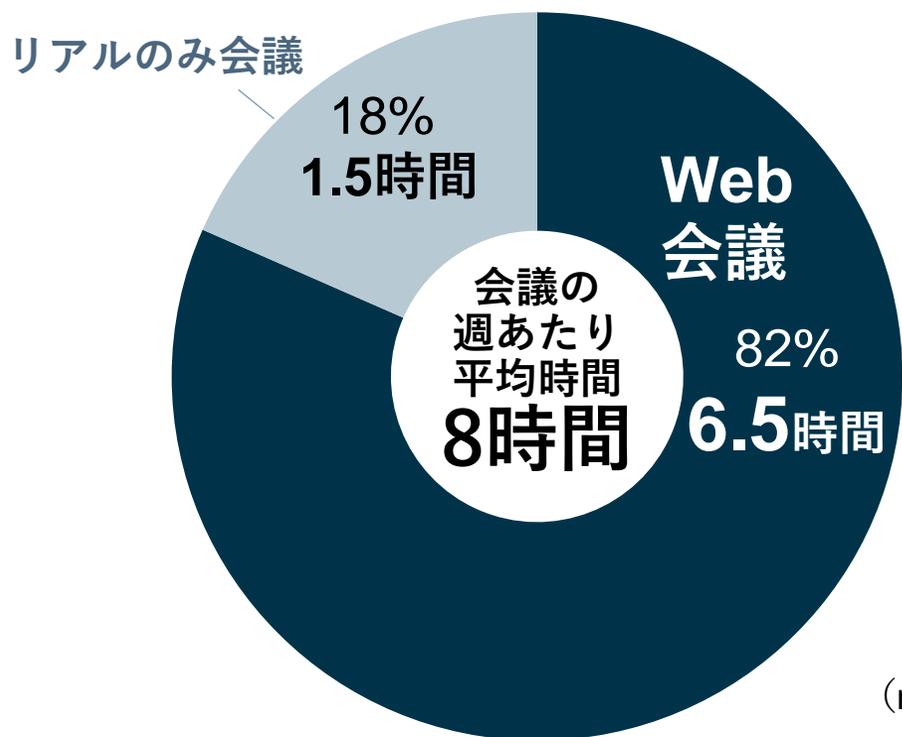
Q. 週あたり何時間 Web会議をしている？

週平均6.5時間  
(会議の82%がWeb)

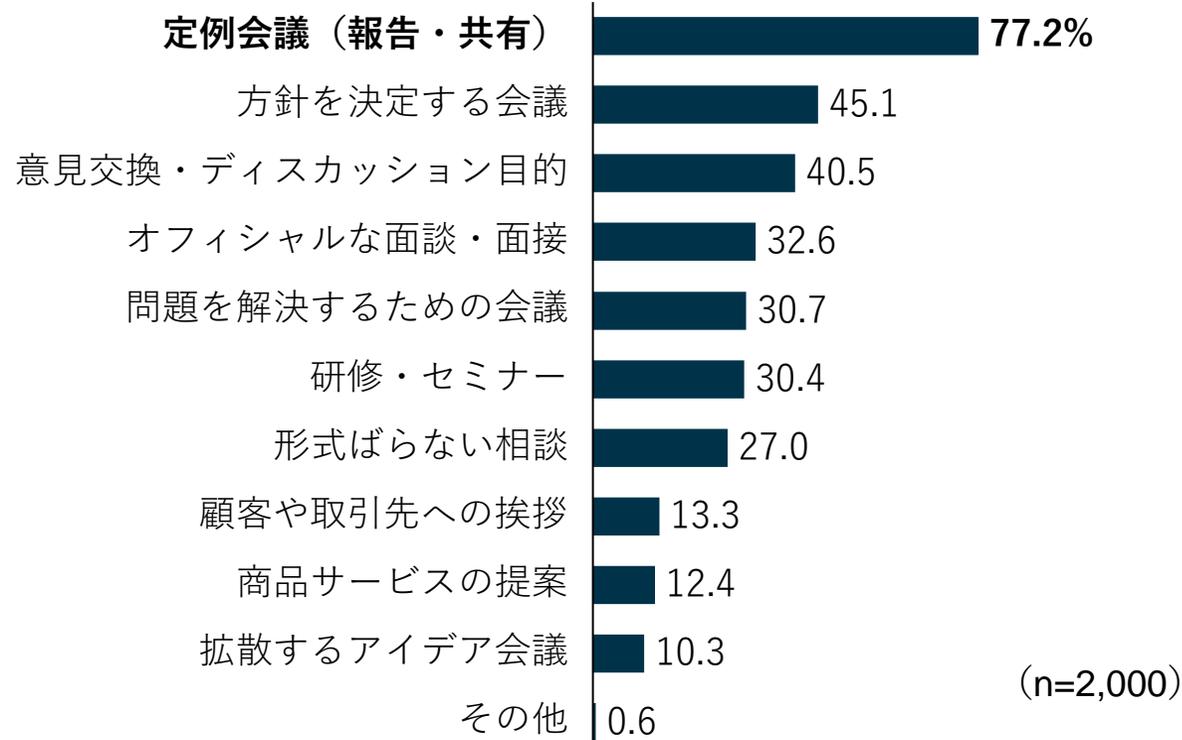
Q. どんな種類の Web会議に参加？

定例会議が最多  
(77.2%が参加)

## ■ 週平均会議時間とWeb会議比率



## ■ 直近1ヶ月で参加したWeb会議 (参加率)



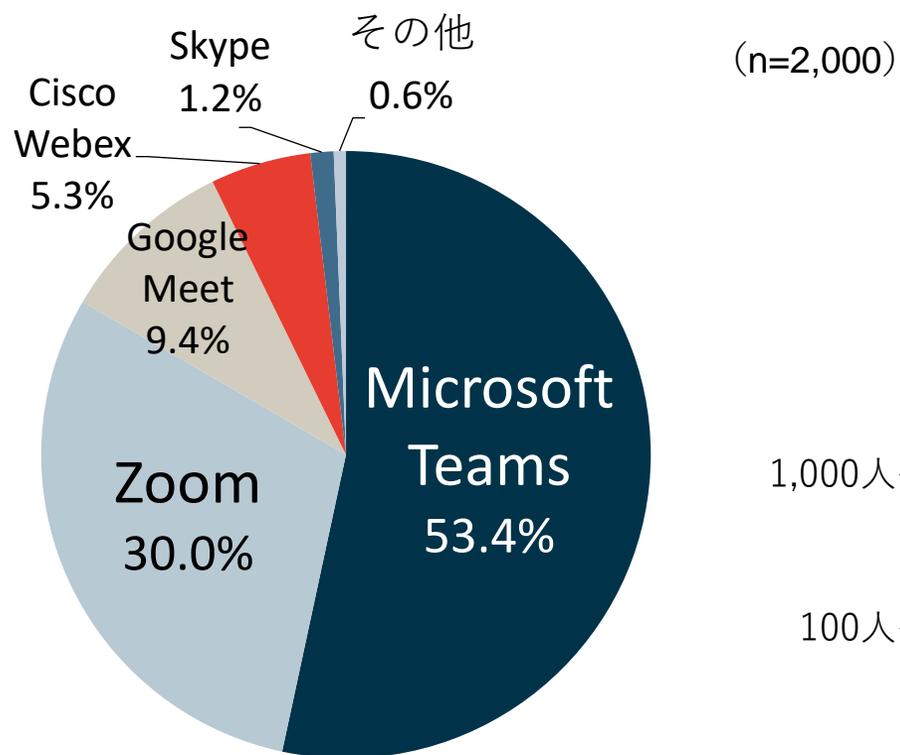
※回答者の参加場所は問わず、1人でも Web参加がいる場合はWeb会議とみなす

# 首都圏ハイブリッドワーカーのWeb会議実態

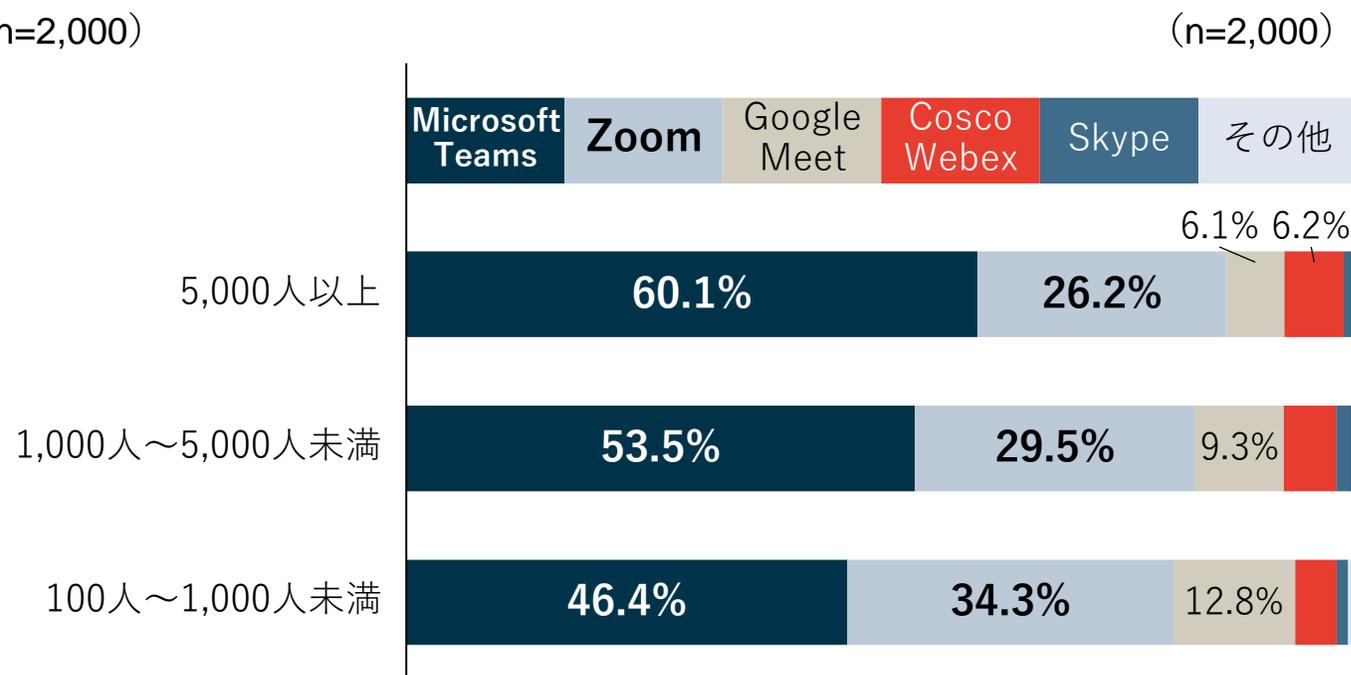
Q. Web会議に最もよく使うアプリケーションは？

Teamsが53.4%で最多、Zoomが30%  
従業員規模が大きいほどTeams利用が増える

## ■ 最もよく使うWeb会議アプリケーション



## ■ 従業員規模別



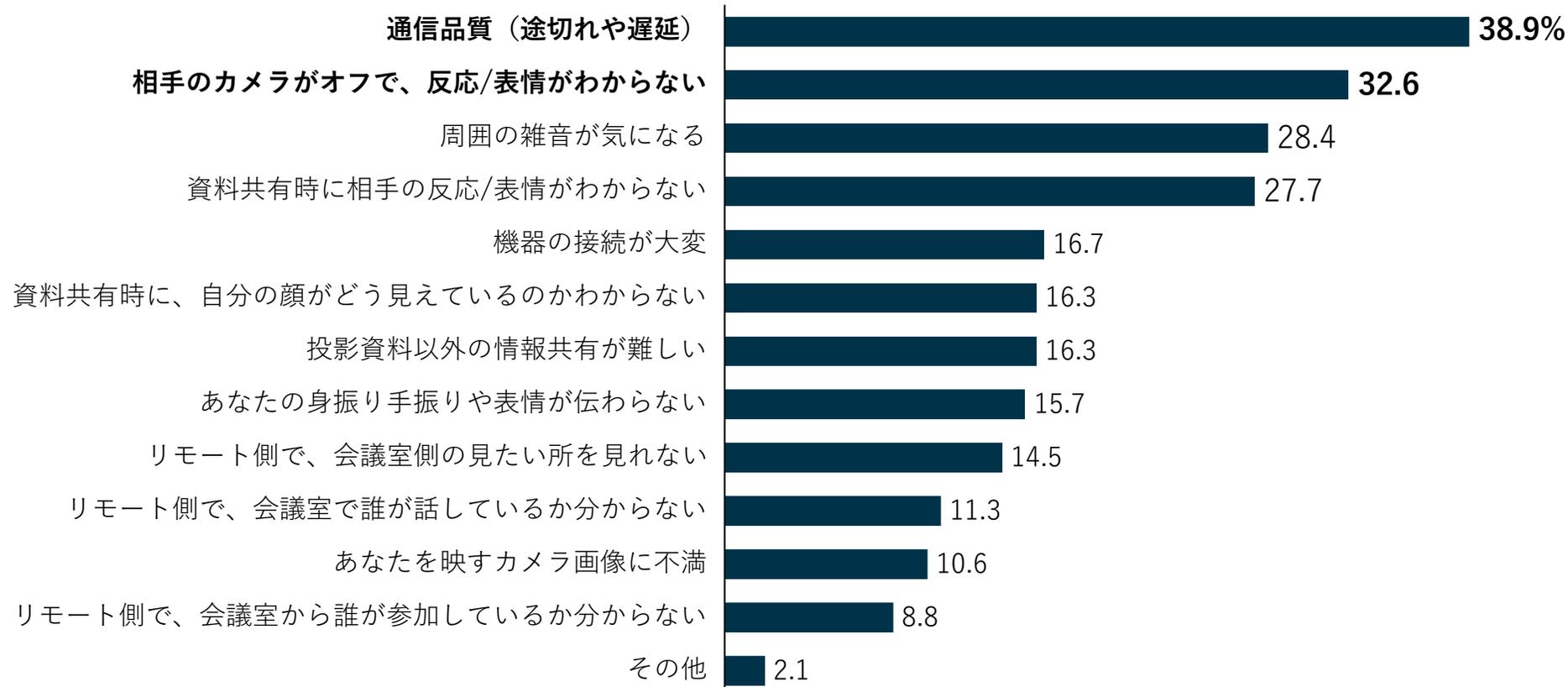
# 首都圏ハイブリッドワーカーのWeb会議に対する不便・不満

Q. Web会議で不便・不満を感じる点は？

1位 途切れや遅延などの通信品質(38.9%)  
2位 相手のカメラがオフで、反応/表情がわからない(32.6%)

## ■ Web会議の不便や不満 (いくつでも)

(n=2,000)



# 顔を映さずとも問題ない等の理由で、自身のカメラを基本オフにしている人が62.1%

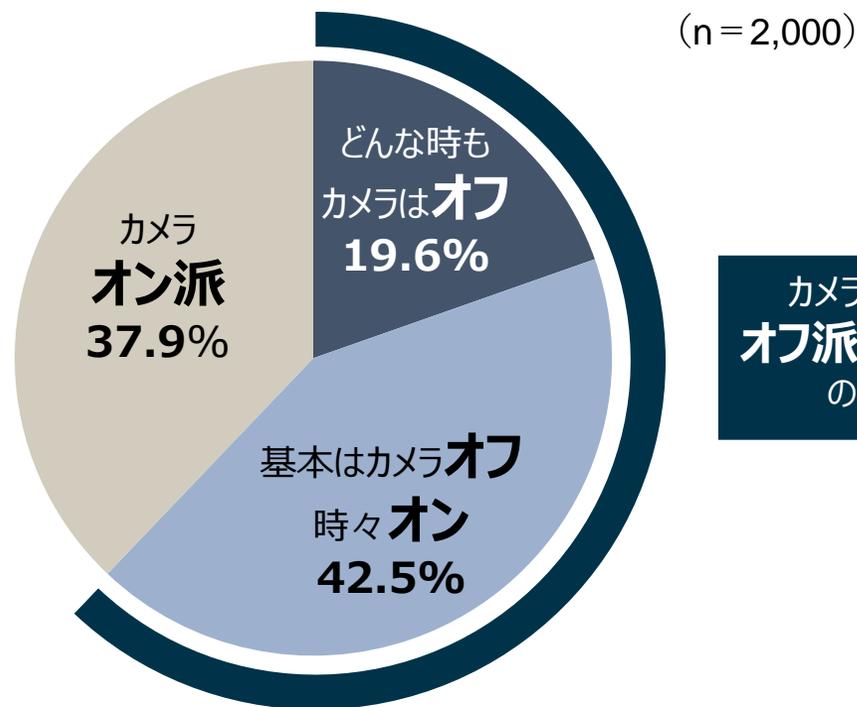
Q. Web会議で  
カメラはオン？

6割が基本「オフ派」  
2割は「どんな時もオフ」

Q. カメラをオフに  
している理由は？

「顔を映さずとも問題ない」  
と約半数が考えている

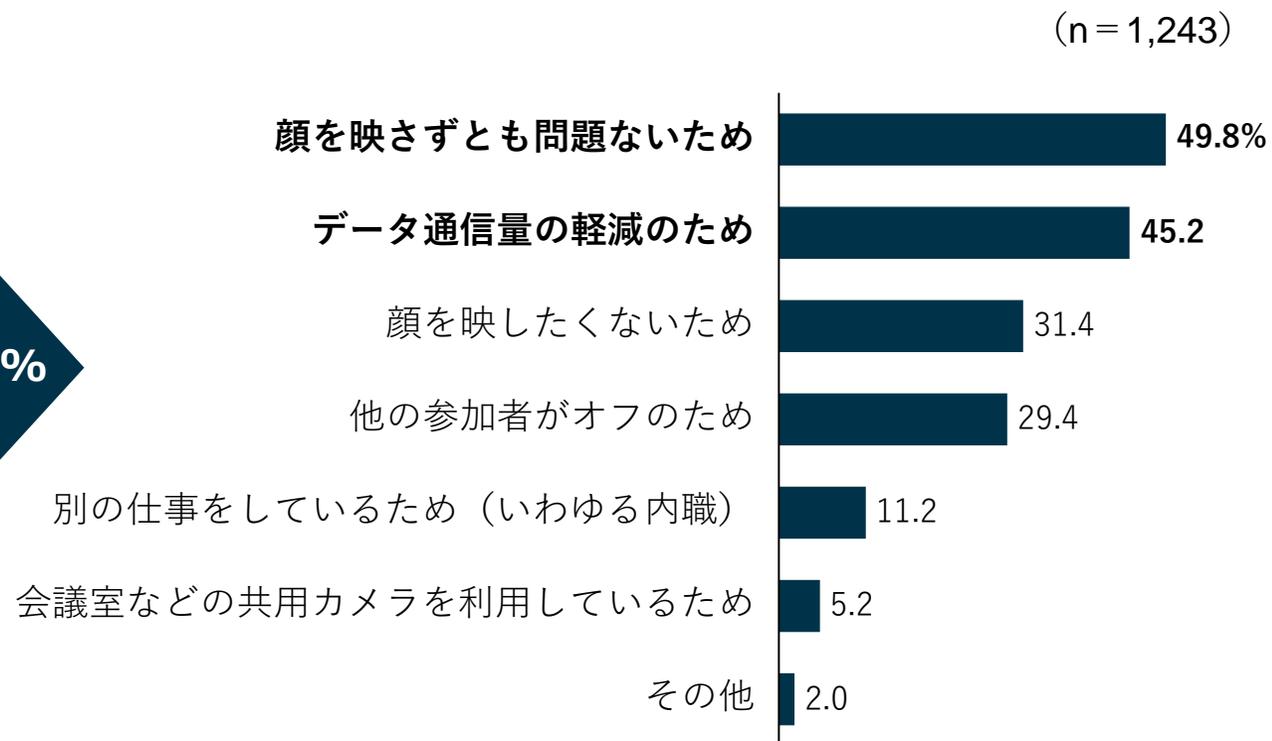
## ■ 自身のカメラの基本設定（オン・オフ）



カメラは基本  
**オフ派 62.1%**  
の理由

## ■ カメラ・オフの理由（いくつでも）

「カメラは基本的にオフにしている」と答えた方

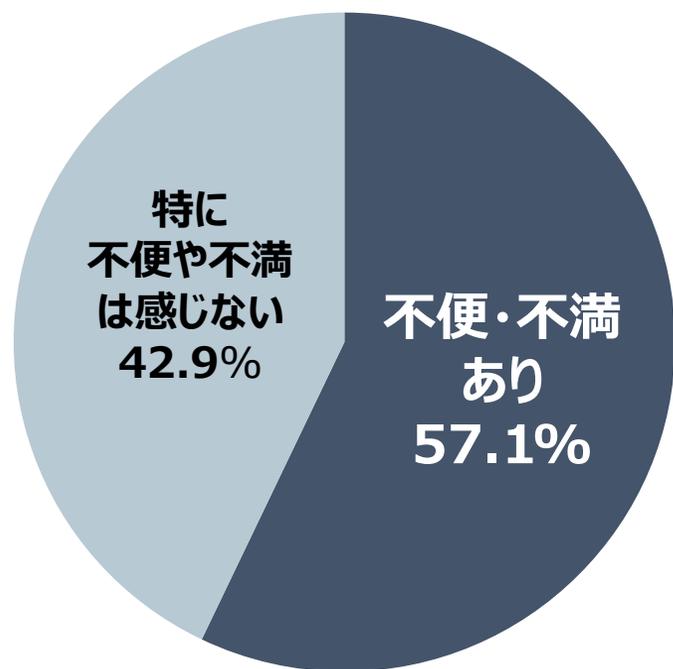


# 相手の顔を見て話したい等、相手のカメラ・オフに不便や不満を感じている人は57.1%

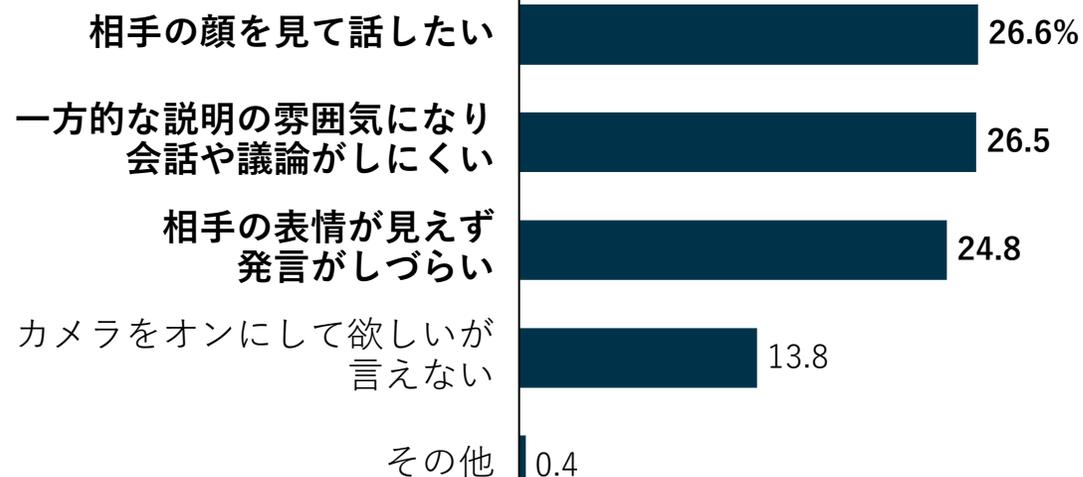
相手のカメラ・オフに対して、全体の約6割は「相手の顔を見て話したい」等の不満あり

「顔のみえるコミュニケーション」を促すWeb会議環境で会話や議論はもっと活性化するのではないか

## ■ 自分以外の参加者のカメラ・オフに対する不便や不満



### 具体的な内容



# 「Web会議のカメラ・オフ」への不満（職種・業種別）

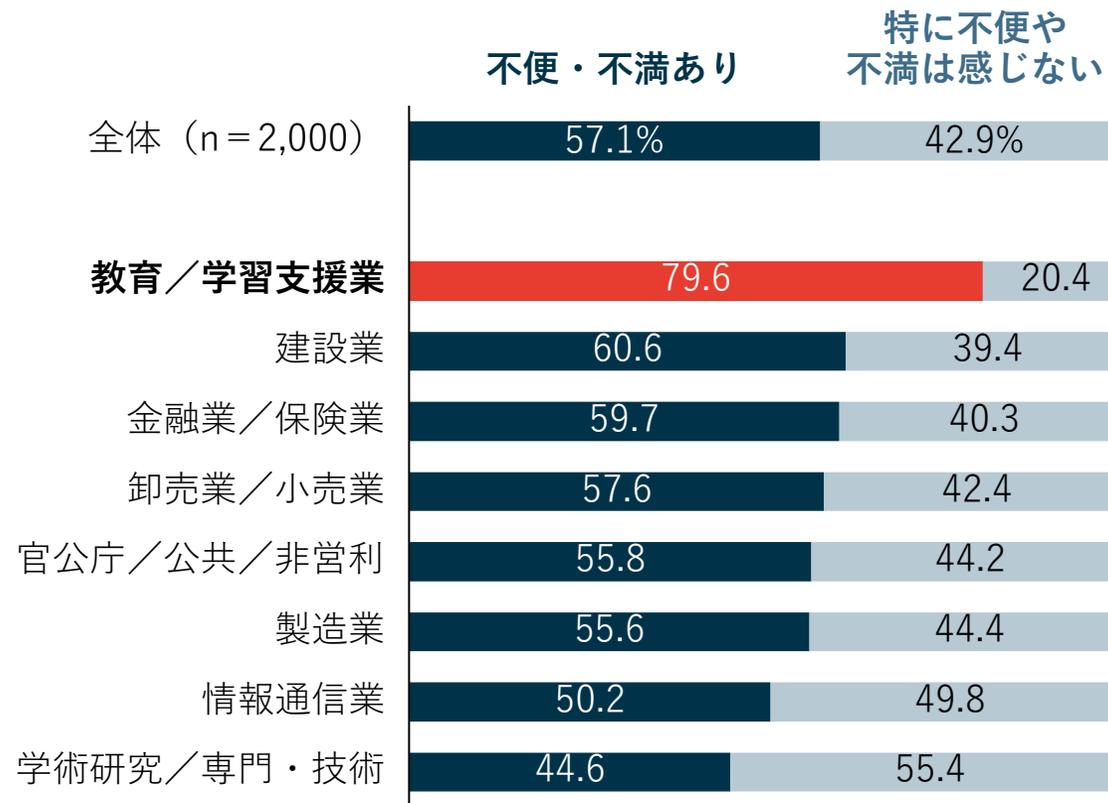
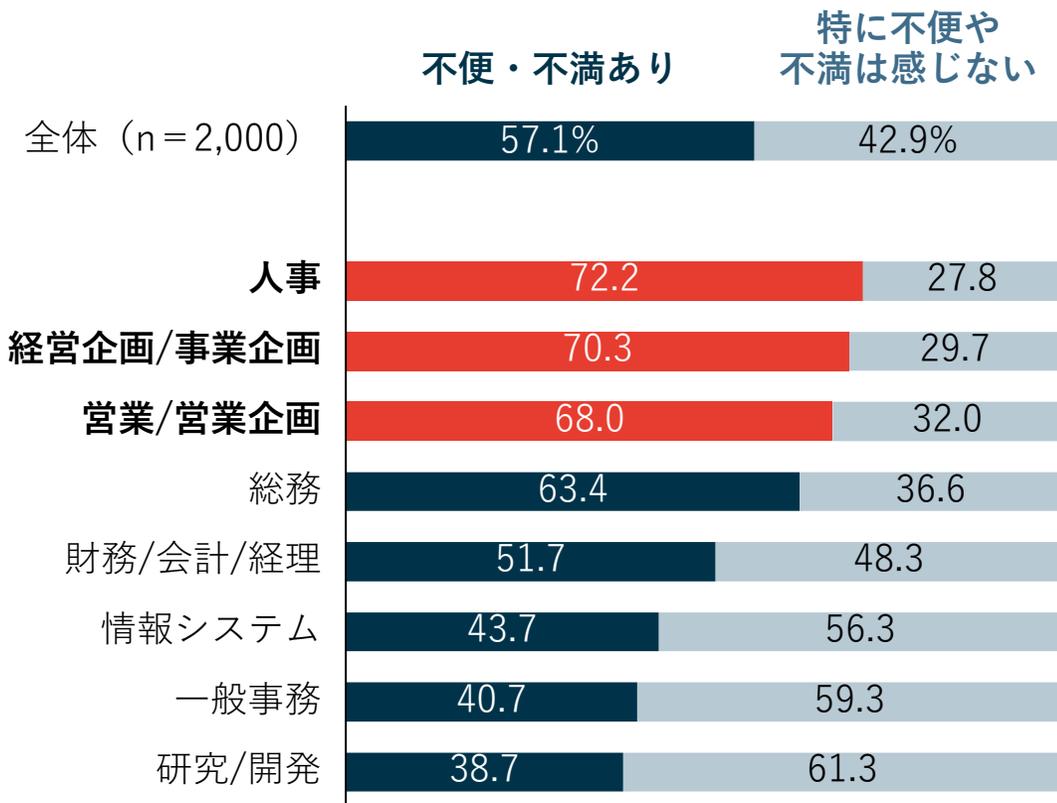
Q. 相手の「カメラ・オフ」に対して  
特に不便や不満を感じているのは誰？

職種では「人事」「経営企画／事業企画」「営業／営業企画」  
業種では「教育/学習支援業」で不満が高い

不便・不満あり  
全体+10%以上

## ■ 職種別

## ■ 業種別



## 総括：「顔のみえるコミュニケーション」はWeb会議の質を高める

- コロナ後にオフィスに戻る人は増えているが、Web会議がなくなることはない。もはやハイブリッドワーカーにとって欠かせないコミュニケーションツールになっている。
- Web会議がさらに質の高い議論や会話をもたらす場となるためには、今回調査でニーズが明らかとなった「顔のみえるコミュニケーション」の実現等、現状の課題を解決していくことが求められる。

次回(Vol.2)は「職種別」の分析結果を公開予定

明日の「働く」を、**デザインする。**